

春風秋霜

8月号

令和2年8月1日
島田市教育委員会より
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 学校訪問から

教育委員で北中学校を訪問しました。コロナウイルスへの対応や統合に向けた意識が全校で共有されていることを実感しました。コロナへの対応として、必要な箇所の消毒を毎日行ったり、移動式の壁を動かし1.5倍の広さにした教室で学習したりしていました。コロナ感染の第2波・第3波を想定し、ICTの活用を進めていることも目を引きました。

統合に向けては、大きな集団でも活躍できるようにするために、縦割り活動や生徒の主体的な活動を重視していました。また、学校最後の年を充実させるため、地域・学校・友達・教師への感謝の気持ちを大切にしている取組も行っていました。

相賀小学校では、子供たちにつけたい力を明確にした取組が印象的でした。「対話力」と「創造力」をキーワードに、子供が主体的に考え決めることを重視し、具体的な変容に目を向け、家庭を巻き込んだ取組を推進していました。

神座小学校では、大きな集団内でも活躍できる子供を育てるという視点で、教科担任制をすすめ、発表の仕方も個々を強くしたいという思いが伝わってくるものでした。両校とも令和6年の統合と小規模校の特性を生かした取組を行っていました。

伊久美小学校では、県立博物館から化石の標本を借り展示していました。大きなショーケースに入った化石の展示は、ミニ博物館のようでした。県の企画に申し込み実現したということでしたが、子供たちにとっては本物に触れる貴重な経験になっていると思いました。市の博物館も資料の貸出や出前講座を行っているので活用願います。

2 夏休みの過ごし方について

今年の夏休みは大変短くなります。そのため、子供たちの活動も制限されます。例年、夏休みの課題として様々な募集依頼がありますが、今年は子供たちの負担を考え、学校判断において参加を決めていただきたいと思います。学習保障のため、夏休みの課題を増やそうと計画している担任や学年があると思いますが、学級や学年により偏りがないように配慮願います。

子供たちには、短くなってしまった夏休みを、楽しく充実したものにして欲しいと思います。事件や事故防止を優先しつつ、自主的・計画的な夏休みにして欲しいものです。

3 大雨などの災害への備えについて

今年の梅雨は例年に比べ異常なことが多くなっています。静岡県内でも例年の4倍以上の降雨があり、東京では19日間雨が降り連続降雨記録を更新しています。災害も多く、九州だけでなく各地で大きな被害が発生しています。

7月の4連休中には、県内各地で土砂災害も発生し、清水では道路が1mも冠水したとの報道がありました。梅雨が明けても今後は台風も心配されます。気象情報には十分に気を配り、被害に合わないようしなければなりません。

ニュースでは「初めての経験」という被害者の発言が目立ちました。地球温暖化が影響しているとの指摘もありますから、これまでの経験を基に行動するだけでは、危険を避けることはできないと思います。何よりも大切なことは、正しい情報と早めの行動です。

4 噂話について

島田市でコロナウイルス感染が明らかになってから、様々なうわさが流れています。先日、腰痛のため整体に行ったら、「〇〇地区で感染者が出たらしい」「〇〇駅を利用していたので、駅を消毒したらしい」など、事実とは異なるものばかりでした。

私に対し事実確認を求めてきたので、「フェイクニュースも多いですよ」と答えておきました。このようなうわさに対し、明確な否定も対象者を特定する情報になりえるからです。教育に携わる者として、根拠のないうわさや個人の特定につながる情報の発信は避けるべきです。また、うわさの拡散も止めるべきです。

患者本人だけでなく、間違って特定された方も、ひどい誹謗中傷を受けたと聞くと心が痛みます。これだけ患者が増えてくれば、いつ自分が感染するか分かりません。人権侵害にもつながる無責任な情報の拡散は絶対にやめなくてはなりません。

5 校長面談を終えて

校長先生方と面談を行いました。どの校長も学校の課題をとらえ、経営方針をしっかりと持って学校運営をしていました。厳しいコロナ禍にあることを逆手にとって、積極的な学校運営を考えている学校が多いことにも安心しました。

今後の感染拡大を予想し、ICTの活用を進める学校や、カリキュラムマネジメントによる指導時間の縮充を図ろうとしている学校があります。これまでの休校期間や今後予想される感染拡大を考えると、例年通りの進め方では間に合わないからです。全職員による意識の共有が大切だと思います。

肘かけ椅子

鈴木 龍彦 教育総務課長

「神座小入口」

今年は、児童生徒の夏休みが短い。せめて夏休み期間は晴天であってほしい。そう思うのは例年のない長雨のせいだろう。大井川は1か月以上濁りが続いている。

雨降りの日など、たまに家を出る時間が遅くなることがある。そんな日に限って赤信号にかかる確率が高い。始業には十分間に合う時間ではあるのだが、理由もなく焦りを感じるのが不思議だ。今日もそうだ、一つ目、二つ目、三つ目、連続しての赤信号にため息が出る。四つ目、この時間帯は、この手押し信号にも捕まることが多い。

ただし、ここは他とは違う。横断歩道を渡るのは、集団登校中の児童。渡り終わると通学リーダーが停車車両に向かって深々と一礼、それに倣ってその他の児童が思い思いの方向に礼。この瞬間がとても素敵。毎日停車しても構わないと思う。特に低学年の頭が膝に着きそうなお辞儀には、本当にほっこりする。

何気ない行為ではあるけれども、なんとなく、みんな素直に成長しそうな気がして頬が緩む。今日は、一日気持ちよく過ごせそうだ。